

## 【第7回松戸市都市公園整備活用推進委員会】議事録

日 時：令和2年1月17日（金） 午後2時～4時30分

場 所：松戸市役所新館5階 市民サロン

出席委員：11名（別紙名簿のとおり）

欠席委員：0名

事務局：街づくり部審議監、公園緑地課課長、公園緑地課課長補佐、  
21世紀の森と広場管理事務所長、所長補佐、街づくり課課長補佐 他6名

傍聴者：0名

### 議 事

1. 21世紀の森と広場の利用者アンケートの結果について
2. 各部会からの報告
3. その他

配布資料：議事次第、出席状況、第7回松戸市都市公園整備活用推進委員会資料

### 議事内容

#### 1. 21世紀の森と広場の利用者アンケートの結果について

##### 【事務局】

- ・昨年8月27日に開催の全体委員会において、調査票の案を示しご意見をいただいた。ご意見に従って事務局にて調査票の修正等を行い、メールにて委員に確認し調査票を確定させた。
- ・10月2日（水）、3日（木）に平日分、10月19日（土）と11月9日（土）に休日分を実施。11月9日は松戸アートピクニックの催しがあったが、来園者数約2,000人（通常の土日は約3,000人）のため、催しによる来園者の増加はなかった。
- ・マネジメントプランの検討にあたり、どのようなデータがあった方が良いのか、また、結果の集計方法についてなどご意見をいただきたい。
- ・結果の詳細は、アンケート調査受託者より説明する。

##### 【アンケート受託者】

- ・調査概要を表1に、調査実施場所を図1に示す。休日調査では出口調査のほか、園内を巡回しながら、アンケート調査を実施した。アンケート調査では退園者を対象にのべ1,299人にアンケートを呼びかけたが、回答が得られたのは576人（回答率44.3%）であった。
- ・平日調査実施時の来園者数は10/2（水）が1,427人、10/3（木）が1,057人、休日調査実施時の来園者数は10/19（土）が977人、11/9（土）が2,677人であった。
- ・調査を実施した2019年10月及び11月における施設別の利用者数は、カフェテラス、次いでバーベキュー場が多く、里の茶屋の利用者数が最も少ない。

- ・アンケート回答者数は 576 人であった（男性 57.8%、女性 42.0%）。住まいの約 8 割が松戸市内であった。平日は 60 歳代以上が 7 割を占めたが、休日は 30 歳代、40 歳代が増えるなど、年齢層が下がる傾向が見られた。グループ構成は一人での来園が最も多い結果となったが、休日は家族づれでの来園が増加する傾向が見られた。
- ・公園までの移動時間は、15 分以内が最も多く（256 人、44.4%）、次いで 15～30 分（191 人、32.2%）であった。
- ・公園までの交通手段は、徒歩（280 人）が最も多く、次いで自家用車（163 人）、自転車（135 人）であった。徒歩 15 分以内（概ね周囲 1km 圏）といった公園近郊の利用者が多い傾向が見られた。
- ・来園理由は、「自然を楽しめる」（398 人）が最も多く、次いで「広い」（277 人）、「静かで落ち着ける」（247 人）であった。公園での過ごし方は、平日、休日共に「散歩」、次いで「花や緑、自然を楽しんだ」が多い結果となった。なお、休日は「子どもを遊ばせた」が増加する傾向が見られた。光と風の広場（310 人）、水とこかげの広場（205 人）を利用した人が多かった。公園内の滞在時間は、1 時間 30 分未満が全体の約 6 割を占める結果となった。
- ・公園内の利用頻度は年代別で傾向が異なり、60 代、70 歳以上では概ね半数以上が週 1 回以上利用しているのに対して、60 代未満では、年に数回が最も多い。
- ・公園全体の満足度については、「満足」及び「やや満足」が約 8 割を占めており、全体としては満足度が高いという結果が得られた。一方、里の茶屋、トイレ、開園時間については、他の施設や項目に比べると「やや不満」、「不満」が多い結果となった。
- ・公園内でどのような遊び方をしたいか（させたいか）では、自然観察（290 人）が最も多く、次いで水遊び（188 人）、いきもの採取（175 人）であった。年代別にみても概ね同様の傾向であるものの、20 代から 50 代については、日帰りキャンプ、アスレチックの回答数も多い傾向がみられた。
- ・ペットの入園については、「入園を認めて良い」又は条件つきで「認める」との回答が 393 人であり、「引き続き入園を認めない」の 280 人を上回った。年代別では意見が大きく異なっており、60 代、70 歳以上では、「引き続き入園を認めない」が半数を超える結果となっている。これを除く年代については、「入園を認めて良い」又は条件つきで「認める」との回答が 7 割から 8 割程度であった。
- ・公園にあると思う飲食施設については、「おしゃれなカフェ」（167 人）、次いで「コンビニエンスストア」（158 人）が多い結果となった。中でも 20 代、30 代は比較的、おしゃれなカフェを求める回答が多かった。なお、「その他」の回答の内訳をみると、60 代、70 歳以上では「今のままで良い」との回答も多かった点が特筆された。
- ・パークセンターや自然観察舎においては、「季節に応じた植物やいきものの展示」（167 人）、次いで「植物やいきものに触れられる展示」（144 人）が多い結果となった。年代別では、小学校から高校生、20 代、30 代では、「自然を使った工作等のワークショップ」「親子で利用しやすいコーナー」を求める回答も多かった。

- ・公園に関連する取り組みについては、アンケート回答者の約8割(462人)から、何らかの取り組みを実施している、あるいは実施してみたいとの回答が得られた。中でも、「イベントや講座への参加」への関心が高い結果が得られた。これらの取り組みを実施するために必要なこととしては、「必要な情報が手軽に得られる手段」(105人)、次いで「同じ関心を持つ人と出会う機会」(80人)が多い結果となった。

**【委員】**

- ・半ば感想だが、公園内の遊び方のデータについては、遊び空間検討部会でもぜひ参考にしたいと思っている。これも踏まえて、長中期的な内容についても考えてみたい。

**【委員】**

- ・結果は予想通り。サービス向上視点からすると、トイレの問題、オシャレなカフェテラスが欲しいというのは当たり前で、里の茶屋が低迷しているのは非常に分かる。営業形態が不定期というのも低迷の一因だと思うが、ロケーション自体に魅力を感じない。施設については思った通りの結果と感じた。

**【委員長】**

- ・魅力との関連性、その辺をどう解釈するかというのは、かなり大事な議論のポイントになる。

**【委員】**

- ・高齢層、若年層のニーズの違いに驚いた。高齢層は「今のままでいい」、若年層は「オシャレなカフェが欲しい」という意見が多くなっているが、そういった場合はメニューなどを幅広くしてニーズを反映させる必要があるのだろうと思う。また、ペットの問題も鳴き声などが不快に思う人がいたり、ニーズにだいぶ違いを感じた。

**【委員】**

- ・資料7ページの公園来園者数に占める各施設の利用者の割合と12ページの利用した場所のデータにおいて、利用状況の数字の見方を教えて欲しい。また、利用者の8割は松戸市内ということだが、残りの2割の内訳は？

**【アンケート受託者】**

- ・利用状況の数字の見方については、7ページで整理されている表は各施設を利用した人の数を実際に集計したデータであり、実際の利用者数ということである。12ページ目で示しているデータは、アンケート回答者が利用した施設数を集計したものである。補足事項として、アンケートを実施した10月3日は、バーベキュー場が定休日であったことが、利用者数の傾向に不整合が生じた要因になったかもしれない。
- ・利用者のうち残り2割の内訳は、2割のうちの7割程度が千葉県内、残りは関東圏、千葉の隣県で東京都内や埼玉県である。

**【委員】**

- ・8割が松戸市内ということで、非常に認知度があると感じた。
- ・このアンケートで重要なのは自由回答欄である。データだと数字でしか出て来ないが、自由回答は非常にグラデーションがいろいろで、読み込んでいくと来ている方々の本当

のニーズが捉えられるし、細やかなご意見は非常に重要である。

- ・トイレについては、アンケート結果からも清掃の管理をがんばっていると感じた。ご意見ではユニバーサルな話も出ているので今後重視が必要。自由回答は非常に参考になるので大切にしたい。

#### 【委員】

- ・今回の調査票の形式の場合、最後の自由回答に記入するという事は、よほど書きたかったということ、要望が強いということ。ここに書いてない人たちの思いも同じようにあるはずで、留意しなければならない。
- ・平日のヘビーユーザー（高齢者の散歩など）は「今のままでいい」との一方、休日の親子や若い方からはリクエストが出ている。平日のヘビーユーザーの今のままでいいという意見については、今のままで変わって欲しくないという意味なのか、それともリクエストを取り入れることによって両立するのか、重要なところだと思う。

#### 【委員】

- ・高齢層とヤング層とにギャップがあるという話だが、こういったものを考えて行く場合、今の50代もやがて、マネジメントプランが完成する頃には高齢者になる。50代の方もオシャレなカフェを好むのではないか。10年後か15年後を見据えて、施設を考えて行かなければいけないと思う。また、「トイレをきれいにしたい」という要望には、応えて行くべきである。

#### 【委員長】

- ・自由意見は大事である。良い点は良い点として認めていただいているが、一方で、かなりリアルな要望も出てきている。今後の具体的な検討において、とても参考になる。
- ・アンケート結果の感想であるが、この公園に望まれている姿は、50ヘクタールの大きな自然あふれる総合公園なのか、日常生活において利用する近隣公園的なものなのか、これからの議論・検討するポイントになると感じた。高齢者の問題にしても、いずれ高齢者となる、いわゆる高齢者予備軍の意見を聞いているということ念頭に置いて今後の課題とする必要がある。

## 2. 各部会からの報告について

### (1) 遊び空間検討部会からの報告

#### 【部会長】

- ・遊び空間検討部会は第5回、第6回の2回を開催した。
- ・検討内容は、1つは短期的取り組み、遊び空間の中の具体的な整備、2つ目は遊具を中心とした遊び空間の名称募集の企画、3つ目に遊び空間整備活用計画の骨子案について検討している。遊具等の設備事業については、事務局から市長、副市長、市議会議長、副議長、市議会の建設経済常任委員会の方にご説明をしており、了解をいただいている状態だと聞いている。
- ・遊び空間名称募集の企画についても検討を進め既に実施をしている。松戸市内の小学校

45 校全児童数、22, 963 人を対象として募集をしている。

- ・中長期的な取り組みについて、今後の部会で、アンケート結果なども含めた上でもう少し具体的な検討を進めたいと思っている。

#### 【事務局】

- ・部会長からの説明に補足したい。
- ・21 世紀の森と広場は大きな公園であることから、比較的規模の大きな整備を行う必要があると考えている。令和元年度には、遊具を含めた遊び空間について詳細設計を行い、令和2年度の1年間もしくは複数年度に渡って整備することを計画している。
- ・第4回委員会において委員長より、「公園のランドスケープとして考えた時、持続性とシンボル性が大事である。最終的に事務局の判断になると思うが、ランドスケープとして21 世紀の森と広場を代表するものとして欲しい、整備のイメージの最終的な案は委員会に報告するように。」とご指示いただいた。
- ・その後、詳細設計委託を発注し、昨年8月、9月、11月に行われた遊び空間部会においてご意見をいただきながら設計を進めている。昨年8月27日に開催された第6回委員会において、市内の小学生から遊び空間の名称を募集することを事務局として提案し、ご承認をいただいた。名称の募集は今年の1月21日が〆切りとなっており、回答率については22,963人の松戸市内の全小学生に対して10%程度の回答をいただいている。
- ・設計作業と並行して、令和元年12月に現時点での進捗について市議会建設経済常任委員会へ報告済みである。
- ・詳細設計の受託者より説明する。

#### 【詳細設計受託者】

- ・1 ページ目の上段は、21 世紀の森と広場の遊び空間における、前提条件となる全体整備テーマと、短期的取組の基本的な整備方針について取りまとめている。それに加え、今回の整備で目指すものとして、独自性、話題性、魅力度や誘引力のある施設の実現を掲げている。他には無く、この公園ならではのものであることや、ランドスケープ的な設えを伴った、遊び空間のトータルプランニングを行っていきたいと考えている。
- ・整備内容を検討するにあたり、現地等を確認し、21 世紀の森と広場が持つ資産・キーワードを抽出した。資産として、自然、歴史、文化、地形、湧水、農、屋外体験。自然では、森や樹林、生き物、樹、花、実、昆虫、動物など。歴史は、縄文や古代、竪穴式住居、土器、縄文模様など。文化は、音楽や演芸、森のホール21、博物館、音遊びなど。地形は、低地や台地、谷戸、広場あそび、山あそびなど。湧水は、せせらぎや池、川遊び、泥あそびなど。農は、田んぼや花壇、農業体験、土いじり、野良作業など。屋外体験は、BBQ やイベントなど。この資産や、キーワードを基に、整備コンセプトを作成した。
- ・整備コンセプトは、先ほど説明した要素を踏まえ、“SUMIKA”とした。人や生き物が自然と共に生活することで、文化、歴史等を作り上げてきた。その生活を支える大切な場所というのが“住み家”であり、この公園が持つ資産を繋ぐ言葉として、“SUMIKA”という言葉を使用した。遊びを通じて、子どもたちにとって、大切な場所になればという思い

も込めている。また、「amu-turel 自然と歴史に囲まれて楽しく過ごす場所」という副題をつけた。

- SUMIKA をデザインするにあたり、デザインコードを設定した。1 つ目は、「生物」-自然や生き物の姿-として、生き物の巣や繭などの棲家をモチーフとしてデザインに取り入れる。子供たちが生き物になって遊ぶ世界や、生き物を観察する仕掛作り、生き物の色彩を用いたカラーコーディネートを行う。また、休憩所の他、各種イベントの拠点として利用可能な、パビリオンを設置する。休憩だけでなく、昆虫に関する知識の学び舎として、「フェアブル」をテーマにしたパビリオンを考えている。
- 続いて、「歴史」-人と自然の営みの記憶-である。縄文時代の「住み家」である特徴的な竪穴式住居や掘立の形状をアレンジした遊具デザインや、かつて海の生物の「棲家」であったことを地層や化石をモチーフとして表現したり、貝塚や古墳を表現したデザインなどを取り入れる。
- 最後に「文化」-自然に働きかける人の営み-である。「農」の体験が行える知育空間として、ボーイスカウトのフィールドや木のぼり、エコスタックなど、大人と子供が協同するあそびエリアを創出する。
- また、人や生き物の営みの中で生じる様々な「音」。そんな” SUMIKA” から聞こえる、「音楽」「会話」「虫の音(ね)」「鳥の声」「風の音」「水の音」など、森のホール 21 に呼応する「音を楽しむ」空間を創出する。さらに、付加する魅力として、QR コードによる各種イベントの周知や博物館などの情報発信や、昆虫採集イベント等を考えている。
- 中長期的取り組みへの発展として、プレーパークエリアとしての利用や、作物の栽培などのパーマカルチャー空間の創出を行う。
- 計画地のゾーニングは「あたらしい施設整備イメージ（短期的取り組みイメージ）」を踏襲している。中央口および五本木口からの動線・視線が交差するエリアに関しては、疎林となっている箇所は 6~12 歳の遊具あそびエリア、見通しの良い原っぱの箇所に 3~6 歳の遊具あそびエリア、その間をまたがるように、砂遊びエリアを設定した。原っぱを見通せる、少し高くなっている箇所については見守り・休憩エリアとした。川遊びエリア及びトイレについては、既存の場所とした。バーベキュー場と光と風の広場をつなぐエリアに関しては、6 歳~大人まで利用できる林間遊びエリアとし、BBQ 場と広場を繋ぐ動線を設けた。
- 遊具の具体的なデザインコンセプトであるが、「群として風景を作る遊具」としてデザインを行う。個々の遊具が集合し、一体的なまとまりを持つことで、広場に新たな独自性のある空間を形成する。具体的には、円と三角形をデザインのモチーフとすること、円の連なりによる平面配置による遊びのサーキットを形成すること、三角錐のパビリオンを遊具の基本形とし、繰り返し利用することである。円や三角形は、縄文の環濠集落や竪穴式住居にも使用されている。このような、特徴的なフォルムと相似形が連続することで、特色のある風景を創出することが可能である。
- 配置平面図であるが、バーベキュー場と光と風の広場をつなぐエリアには、遊具空間へ

のアプローチとなる縄文トンネルと、スパイラル・フォレストという名称のローラースライダー、斜面を登りながら遊べる冒険トレイルを設置。林間には、BBQ場と遊具空間を繋ぐ動線を設ける。中央口および五本木口からの動線・視線が交差するエリアには、疎林エリアには縄文サークルという名称の児童用複合遊具、広場側には幼児用の造形複合遊具の昆虫のスミカと、大きな砂山のジオマウンテンを設置。生き物パビリオンは、休憩や見守りの場となる。縄文サークルのある疎林から林間へかけてをパーマカルチャーエリアとした。

- 具体的な遊具イメージの説明となるが、縄文サークルは竪穴式住居の形状をイメージした三角錐形状を、円形に配置した、まとまりのあるサーキット型の複合型遊具である。円形配置により、「縄文のムラ」のような風景をつくりだす。住居内にはネット遊具やクライム遊具などのあそびを散りばめる。中央は、貝塚をイメージしたくぼみを設け、地形に変化のあるあそび場となっている。住居どうしを繋ぐ吊り橋は、竪穴式住居の中に吊られている荷物置きをモチーフとしている。
- 昆虫のスミカは、昆虫の巣をイメージした造形複合遊具である。子供たちが昆虫となって、巣穴の迷路を駆け回るものである。有機的なフォルムは子供たちの想像力を掻き立て、感覚を豊かにする。スライダーやクライミング、トンネル、泥あそびや玉転がしなど、幅広い遊び方が可能である。
- ジオマウンテンは、かつての生き物が眠る地層や、岩石の風化・浸食を想起させる大きな砂山である。砂山は遊ぶごとに形を変え、子供たちの想像力を刺激する。地層の表現や、化石の発掘などの宝探しができる仕掛けを行う。
- 生き物パビリオンは、昆虫を観察することができるプランターを伴う休憩スペースである。プランターには昆虫が集まる植栽を施す。パーゴラは昆虫の巣や繭のようでもあり、木々の根っこや枝が絡みあった様でもある不思議な形状で、木漏れ日の下にいるような気持ちのよい木陰を提供する。柔らかみのあるフォルムは、優しく包み込まれるような憩いの空間となる。中央の本型プランターは、ファール昆虫記をイメージしている。QRコードの仕掛けなどにより、昆虫の知識や各種イベントなどの情報発信拠点にもなる。
- スパイラル・フォレストは木々の間を縫うように滑り抜ける、ローラースライダーである。一周することでの視点の変化も楽しむことができる。冒険トレイルは、林間を登りながら遊ぶことのできるネットクライムを中心とした遊具である。スパイラル・フォレストの終点には竪穴式住居をモチーフとした縦型ネットがあり、冒険クライムの出発点となっている。BBQ広場等からあそび空間へ誘い、期待感を高める導入空間である。巣穴のようでもある歪みのある形状は、現代と古代を繋ぐタイムトンネルとなる。
- パーマカルチャーエリアは、遊具ではなく、自然を用いて活動するあそびエリアである。大人と子供が協同してあそびをつくり、自然と触れ合い、木登りやエコスタックでの昆虫の棲家づくり、簡単な園芸などから初め、将来的にプレーパークの利用や農園などを通じ、人と自然との営みを学習する知育空間となる。
- 森の音楽道は、森の音楽家である昆虫や鳥たちの鳴き声や、風の音など、自然の音を感じ

じることができる集音器具を各所に配置した散策路である。おんがくの小径は小径沿いに、さまざまな楽器遊具を点在させるものである。

**【委員長】**

- ・具体的なイメージから現場に即応したデザインの業務方針が定められ、進んでいるという報告をいただいたが、部会の方では説明されているのか。

**【部会長委員】**

- ・説明は受けている、中間答申で出したコンセプトを大きく外してないかという点について検討はしている。

**【委員長】**

- ・基本設計に入っているとのことだが、工期的なことで複数年とはどのくらいのことなのか説明して欲しい。

**【事務局】**

- ・大型の遊具のため、1基あたり数千万円以上のコストがかかる。市の会計で処理するのではなく、国からの補助金、市の地方債の活用となり順次整備をしていくこととなる。全体で3億円かかると想定し、3億円のうち1億5千万円を国からの補助金にした場合、1億5千万円の補助が1年で得られるのか2年で得られるのか、3年以上かかるのかというのはまだ定まっていないため、複数年次に渡って整備をすることになる。ある程度ゾーニングをして、乳幼児用から取りかかり徐々に山の方に向かって整備をする、整備完了と同時にある程度利用できる環境に整えていきたいので、手前の方から奥の方に向かって整備していきたいと現状では考えている。
- ・松戸市唯一である総合公園の21世紀の森と広場においては、今まで遊具を置かないというコンセプトで公園管理を行ってきた。この公園におけるユーザーの遊具の使用については未開拓であり、知見を持っていない部分もあるため、実際に利用者の声なども聞きながら遊具を整備していきたい。
- ・遊び空間部会の委員の方々には、遊具の整備だけに傾倒せず、公園全体を遊び空間、もしくはレクリエーション空間としてどのように活用していくのかについて、アイデアをもっと出して欲しいというご意見をいただいている。整備した遊具で遊んだ方が公園全体の魅力に気づき、いろんな遊びの場に入っただけのような、遊具に依存しないような空間になればより望ましいのではないかと、事務局としても理解している。

**【委員長】**

- ・新しい利用者開拓、長く滞在していただけるよう、魅力アップに繋がることを期待している。

**【委員】**

- ・非常にナチュラルに溶け込むような形で努力されているのかなと受け取った。
- ・既存の音楽遊具の評判はどうか、また、イラストで見せていただいた遊具はオリジナルなのか。

**【詳細設計受託者】**

- ・音楽の遊具に関しては既製品である。他のものは全てオリジナルである。

**【委員】**

- ・既製品の遊具は景観に溶け込むような色合いにして欲しい。また、オリジナルの遊具については、法定点検などは可能なのか。

**【詳細設計受託者】**

- ・基本的に遊具のメーカーさんと一緒に作製しており、安全基準などはすべて準拠した形で造っている。

**【委員】**

- ・そうなるとすごい評判になると思う、とても楽しみである。

**【委員】**

- ・非常に評価出来るものであると思う。大事なのは造るだけではなく、その後の維持管理である。マンパワーも必要であるため、コストのかけ方を考える必要がある。
- ・安全検証は徹底してやっていただきたい。子供は予期せぬような行動に出ることも踏まえて安全性に優れ、かつ楽しさも追求した、バランスの取れた遊具を期待している。そうならば、広範囲からの集客が見込めるのではないだろうか。

**【委員】**

- ・要望となるが、時代の流れとして、今は遊具におけるテーマは「インクルーシブ」である。これから造り上げるのであれば、インクルーシブな遊具を念頭に置いたデザインや遊び方を入れて欲しい。ちなみにインクルーシブとは、バリアフリーもさらに超えて、障害のある子供でも健常な子供でも、分け隔てなく遊べる空間、遊べるということを示している言葉である。

**【委員長】**

- ・これからは、人だけではなく生き物全てを含めたインクルーシブを意識して物事が動く時代であると言える。具体的な設計段階となった際には、市の担当者には、この点も留意していただきたい。

(2) サービス水準向上検討部会からの報告

**【部会長】**

- ・12月12日に第4回の部会を開催。アンケート結果に基づいた課題の検討、サービス水準向上のための便益施設に関わるもの、便益施設に関わること以外の内容整備等を行っている。
- ・アンケート結果では、大きく高齢層と若者層、親子に分けられ、それぞれニーズ、リクエストが大きく異なっていることを確認した。どの世代をターゲットとしていくのか重要である。
- ・滞在時間を延ばすことについて。遊び空間の部会でもあったが、滞在時間を延ばすために何が出来るのか、それから平日の高齢者の単独での来園者に向けてサービスであった

り、イベントを考えるのも滞在時間延長に繋がるのではないか。

- ペットの入園について。ペットの入園と積極的に遊ばせられるドッグラン等の施設についての検討について意見を出したところ、事務局よりルールづくり、ペットの入園をどうするか、まずはその検討からどうかという意見を頂戴した。
- 開園時間について。アンケートでは延長の要望があったが、当部会では、21世紀の森と広場は広大で自然豊かなところなので24時間開園は難しいだろうという見解である。一方で夏場の早朝開園については、事務局より来年度からの施行が可能というお話をいただいている。
- サービス水準向上のための便益施設に関わることについて。まず便益施設という言葉だが、役所ではカフェテラス、里の茶屋、バーベキュー場のことを言っている。部会では便益施設とはそれだけか、という意見もあり、役所、部会のそれぞれが便益施設というものについても一度検討した方がいいのではないかと、共通認識されていない。
- カフェテラスをオシャレにしたい、里の茶屋をどうするのか、という問題は当然あるが、部会としては昨年度募集要項の改訂ということで対応してきたことがあり、事業者が入っているため、何かを変えることは現時点では難しい。ただし、アレルギーに関することや情報開示をもう少しした方がいいのではないかと、という意見は出ている。
- 便益施設以外について。カフェテラス以外の施設に関しては、とにかくトイレに関しての意見が出ている。快適なトイレと中間答申では言っていたが、費用の問題もあるため、出来ることから順番にしていくのはどうか。例えば和式だけのトイレの改善、明るさや換気など、項目出しをした上で計画的に実施することを提案したい。
- また、身障者向け、オストメイト対応など、将来的にはよりインクルーシブな形にしていくこと、グローバルな形にしていくことが求められると思うが、予算・時間という問題があるので、まずは現状の詳細を情報開示することによって、ハンデを持っている人々が安心して訪れることが出来る、現状が対応し切れていなければ来園することが出来ない方もいらっしゃると思うが、トイレの詳細が分からないから不安に思い、行かないという選択をさせないために、情報提示をしておくことによって来園しやすい環境に繋げていくことが出来るのではないかと。それは車椅子やベビーカーを利用する人たちにとっても、利用しやすい環境を高めていくために、将来的なハードな面での対応以前に今出来ること、費用をかけないで出来ること、現状まずは事前にホームページ等でより詳細な情報を開示していくことを提案している。
- インバウンドについては、現状の利用では海外からのインバウンドの方が来園されていない。来園者は松戸市に住んでいる方やその家族だと思われるため、日本語を理解していないインバウンドではないだろう。そのため、現状ではそこまで配慮しなくても良いのではという意見が出ている。

#### 【委員長】

- トイレに関する問題は圧倒的に急の対応を必要とされる。
- インバウンドの件、今後コミュニティや住人の多様化が進むと言葉の問題、サービスの

内容の提示、あるいは言葉が通じないことによって、マネジメントに関することが全然通じなかったという例もあるようである。こういったこともサービス水準向上の中においては大事な点かと思う。

**【委員】**

- ・現在、公園内の飲食店では、何かアレルギー対策を行っているのか。また、公園内にケータリングカーやキッチンカーは入っているのか。

**【事務局】**

- ・今までイベント等においてもアレルギーの掲示はしていない。前回の委員会において委員の方からの問合せがあり、市の現状について調べたところ、アレルギー表示は加工食品については義務化されている。食品を提示する部分については、注意喚起はあるが任意である。しかしながら、義務化されていることだけでなく、利用者の利便性を重視し、里の茶屋やカフェテラスでは、来店者に対して、「アレルギー対策については躊躇なく関係者の方へご質問して下さい」との旨を表示することにした。

**【委員長】**

- ・アレルギー対策は重要である。

(3) ゾーン別保全方針見直し部会からの報告

**【部会長】**

- ・第2回部会を10月29日にパークセンターにて開催。実際に公園内を歩き、自然観察の施設も回った。
- ・議事概要のうち、①樹林地や水辺と自然環境の保全と活用の検討では、特に千駄堀池における外来生物対策に関することであり方向性について検討した。②ゾーン別保全方針の検討では、遊び空間検討部会の状況を共有し、いろんな方向性について検討した。このほか、③今後の部会の進め方を検討した。
- ・樹林地の保全と活用について、千葉大学園芸学部にて21世紀の森と広場樹林地保全活用調査研究委託を委託しており、調査の方を進めている。千駄堀池の外来生物対策については、閉鎖性水域であるため、外来生物が一旦侵入すると増殖してしまい、影響を及ぼしてしまう。そのため、市では「かいぼり」の実施を検討している。「かいぼり」によって期待される効果としては、外来生物が減少し、在来種の生態系が回復することである。なお、部会当日に自然生態園の方を歩いてみたが、やはり湿地環境がどうしても乾燥化していて、維持管理の仕方もどのような管理がいいのか課題があると感じた。
- ・部会では、ノウハウを持つ業者や団体が関わらないと「かいぼり」の実施やボランティア育成は難しいのではないかと意見が出ている。また、「かいぼり」の持続性の点では、今後どれくらいの民間企業、大学、地域住民、ボランティアが事業に関わっていけるのか、ボランティアの担い手をいかに育成し確保していくかが重要な課題であるとの意見がでてきている。そのため、このような仕組み全体をどのように作るのか、今後の方向性として、現状課題の再確認、かいぼりの目的・実施方針・成果等について、より明確にし

ていく必要があると認識している。

- ・ゾーン別保全方針については、3年前のモニタリング調査において、既に作成されていることから、今後は保全方針を具現化するための仕組みを考えたいということになった。
- ・保全と活用のバランスを常に考えることが重要である。今後は、普段のモニタリングなども含めて、地域を巻き込んだ持続性のある公園の在り方や保全の実践にむけた枠組みをきちんと検討することが重要である。そのため、計画を具体化していくための仕組みを作るための意見交換が必要になってくるのではないかと考えている。保全活用は生態系の保全、普及啓発、パートナーシップ 3 つのステップ進める必要がある。また、パートナーシップは人材育成の仕組み、人や地域主体を巻き込んでいくといった仕組み作りも必要である。

**【委員長】**

- ・かなり具体的なアクションが動き出すような報告であると感じた。今後は保全計画をいかに具現化していくのがポイントであるということである。

**【部会長】**

- ・市が既に実施していることも見据えつつ、保全と活用のための計画が作ったままとならないように、きちんと具現化していく必要があると感じている。

**【委員長】**

- ・1つの部会で対応する事柄としては、かなり荷が重い部分が相当含まれているのではないだろうか。

**【部会長】**

- ・そのため、パークマネジメント戦略部会での検討事項との整合性に留意するほか、足並みを揃えた検討が必要ではないかと思っている。

(4) パークマネジメント戦略検討部会からの報告

**【部会長】**

- ・11月26日第4回検討部会を開催。議事内容は、アンケートの結果およびマネジメントプランの骨子である。
- ・パークマネジメントプランは、委員長より令和2年の6月に最終答申にしたいというご提案があり、委員会各部会での検討内容をプランとして骨子として集約していく、骨子の全体像、構成を示すための検討となった。
- ・提示された素案に対して、部会より以下のように要望した。  
21世紀の森と広場のための、説得力のある、ストーリーがわかるような書きぶりに、また、公園が持っている良さ、地域の持っている良さをさらにどう生かしていくのかを明確にして欲しい。また、全体的に条文が多いため、市民にとって分かりやすい、イメージしやすいプランを作っていただきたい。
- ・骨子の全体像を作成するにあたり、現状を整理した際に出てくるキーワードや、着目すべきポイントを導き出すために、みなさんにも共有出来るような形の整理がどうあるべ

きなのかについて、私も佐藤委部会員も含めて議論をし、事務局と何回かやり取りをして出来上がった資料である。

- ・説得力とストーリーが分かるための1つの手法として、今回SWOT分析を取り入れた。SWOT分析は、公園の良さや悪さ、何がポテンシャルとしてあるのか、そういうところまで分かる分析である。

#### 【事務局】

- ・21世紀の森と広場の現状分析として、利用者アンケートや各種調査、上位計画への記載などから得られた現状について、強み・弱み・機会・脅威という4つの要因で分析を行うSWOT分析を行った。また、21世紀の森と広場が目指す将来像の案と、現状とのギャップを埋めるための方向性の整理をするため、強み・弱み・機会・脅威の4つの要因を掛け合わせるクロスSWOT分析を行い、方策の柱の検討を行った。表の中の4つの白い枠が、強み・弱み・機会・脅威の4つの要因を掛け合わせた部分であり、要因を掛け合わせて導き出した方策の柱を、前回の委員会までに整理している。公園の魅力を高める、地域の魅力を高める、新たなマネジメントシステムの構築、という3つの基本的方向性ごとに分類した。
- ・43ページの資料では、クロスSWOT分析により整理した方策の柱について、将来像の実現に向けて、実施する方策の案を整理した。将来像の案については、ページ最下部に記載。前回の委員会においてお示しした将来像の案について意見をいただき、内容を改めた。公園の魅力を高める、地域の魅力を高める、という部分は互いの相乗効果により魅力を高め合うものと考えている。公園、地域の関わり方の差を表すため、それぞれの方策の位置を左右にずらしている。
- ・将来像のキャッチコピーの案は、パークマネジメントプランにおいて、21世紀の森と広場がこれからどんな公園になっていくのかを端的に表すためのものである。前回の委員会でいただいたご意見を反映し、改めて案を作成した。
- ・キャッチコピーと併せて、これからどんな公園になっていくかを絵に表した。パークマネジメント部会の中で、イメージ図を作成した方が良いとのご意見をいただいたため、取り急ぎ事務局にて作成したものである。今後のパークマネジメントプランの検討に併せて、今後きちんとしたイメージ図を作成していきたい。

#### 【委員長】

- ・最終的に新しいマネジメントの在り方を検討しようということ。その骨子の基本的な要点を早めにまとめておき、そこからスタートしていこうということがあった。時間の関係もあり、6月を目処に骨子の最終答申を行いたい。
- ・今回の全体像は、従来の維持管理運営計画の規定に基づくのではなく、魅力を高める、サービス水準を向上させる、地域に貢献していく、といった理念をどのように具現化させるのか、そのための1つの形という風にご理解いただきたい。何をもって公園の魅力と地域の魅力を高めるのか、その高め方を表現したのが、基本方針の方策の柱である。この公園の将来像、キャッチフレーズと言うのか、どんな公園にするのかを一言で語れ

るようにしたい。

- ・プランの骨子であるため、抽象的な言葉に置き換えて、これを市民の方にも分かっているだけのような、あるいはこれからの行政の目的、それを端的な言葉で表現していけるようにするという使命がある。これからについては、1つ1つの内容を文章化していき、骨子その1、骨子その2、と箇条書きで示していく。

**【委員】**

- ・SWOT分析の見方を教えて欲しい。

**【部会長】**

- ・21世紀の森と広場のそれぞれ強みと弱み、現状どういふのがあつのかを羅列している。現時点での強みは来園者数60万人、希少種の生息など、弱みは遊具がない、トイレの問題、夜間の問題、ペット持込禁止などである。これらもどつちに取るかというのも判断があつたと思う。また、外部・地域の魅力について、公園にとって良い条件にあつのかどうかというのが機会にあたり、公園にとって阻害要因、ぶつかるようなことは脅威ということで分けていふ。プラスマイナスである。それを4つで並べてみて、それぞれの強みと公園の中の強みと弱みと、外部の公園の良さを生かせるものなのか、潰すものなのかというのを掛け合わせたものが結果ということである。

**【委員長】**

- ・行政的な仕組みや財団、民間企業や准企業とはだいい違ふとは言いつながらも共通する点があつたにある。内部の問題と、公園内部で起きている事柄でキャパシティ、それから外部、公園の外側をとりまく条件という風にご理解いただくと良い。

**【部会長】**

- ・民間企業はコンペなどでライバル会社に対して分析を行うため、脅威の意味が違つたりするのだが、そういう言葉を置き換えて整理することが出来るのではないかと。民間企業ははっきりしていつ、脅威で弱みというところは、まず撤退となる。しかしながらこの場合、そういうのが良いのかどうか。だから、難しいので長期的に捉えるとか、もしくは抜本的に変えないとダメだとかいう結論に整理されるのではないかと、ということをお応用した考え方なのではないかと思う。

**【委員長】**

- ・トイレ老朽化というのは、場合によつては無くしてもいいという選択肢があつるジャンルである。しかし、パークサービスにおいて捉えた場合は、出来るだけ来園者に楽しんでいただく、魅力を感じていただく、良いサービスを提供する、といった公共としての義務的観点が入つてくるため、それは、かなり大事な要素になつてくるだろう。
- ・公園の魅力、公園自体の魅力、地域の魅力、それから新たなマネジメントシステムと結びつける、これらをフローチャートで図示できると良い。

**【委員】**

- ・ここに書いてあつたことは素晴らしいし、全部出来ればいいのだが、このレベルの話になると、例えば役所の中で枠を超えてそれぞれ得意な方がその目的のために集散するよう

な仕組みを改めて作ったり、子育てや防災など多岐の分野が関わっているため、役所全体または役所の中だけではなくて、得意な諸団体の協力を仰ぐような仕組みをきちんと作らない限り、現時点での体制で公園の管理をしながらこれだけのことを実現していくことは出来ないと思う。産官学ではないが、役所の枠から超えたところでも人が集まって、必要な時に必要な人たちが集まって、意見を言うだけではなく、一番大事なのは実際に行動する人たちを作ることである。例えば得意な企業、商工会議所が枠を超えて柔軟にコラボレーション出来る仕組みを作ることにより、実現が可能になっていくのである。

#### 【委員長】

- ・委員が言われた仕組み作りは非常に大事なことである。21 世紀の森と広場、あるいはその公園の中で適用していくとするならば、どういう言葉で置き換えるといいのかという作業は必要である。

#### 【委員】

- ・東京都の西東京市が2017年度に指定管理制度を導入し、50公園まとめた管理している。現在は54公園に増えているが、指定管理をするにあたって、市が先んじて市民協働担当を緑公園課の中に置いたことが非常に先進的であった。行政内の部署内・部署同士をつなげるとか、民間と繋がって行くというのは非常に難しいため、緑公園課の中に1人そういう職員を設置した。ハードルはとて高いが、今までにないものを作っていき、マネジメントの仕方も変わっていくとなるが、やってやれないことはない、西東京市の事例では感じている。

#### 【委員】

- ・松戸市の中でも、社内教育の方針の見直しをしている企業においては、体験の機会を増やすということが重要視されているため、そのような取り組みと連携できれば、より良いのではないかと思う。
- ・21世紀の森と広場の魅力の1つとして農作業が出来ることが挙げられる。しかも、あれだけの規模と空間を備えたところはまずないため、大きな魅力であると感じている。そのため、魅力を高める活動、あるいは公園が担う機能の1つとして、農作業について書かれていると良いのではないかと思う。

#### 【委員長】

- ・公園のマネジメントの一つの柱として、農作業が出来る魅力とその向上にも触れておくという理解で宜しいか。

#### 【委員】

- ・はい。現在は子供向けに「こめっこクラブ」の活動があるくらいである。あとは違う事業として収穫体験が一部行われているということは聞いている。遊べる農地や体験できる農地は他所ではなかなかないため、それは大きな魅力にはなるのかなと個人的には思っている。

**【委員】**

- ・今の話については、例えば、農協や地元農家、それから私たちは江戸川でフラワーボランティアをしているが、この一番の母体は普段から家庭菜園をしている人達であり、うまく絡められるのではないだろうか。全てを職員が企画するには限界があると思う。そのため、各自にメリットがあるような仕組みを作り、様々な人に参画してもらうことが魅力であったり、楽しさにつながるのではないだろうか。特に楽しさや遊び感覚はとても大事である。これまで、崇高な理念での取り組みをたくさん見てきたが、なかなか上手く進まない。一見、遊んでいるように見えて、実際にはいろんな人が上手く参加し、関わり、物事が進んでいくような組み立てがいいのではないかと思う。

**【委員】**

- ・43 ページ（体系図）については、これからもっと検討していく必要があると感じているが、そのような理解でよろしいか。

**【委員長】**

- ・委員より体系図に関して、これが最終案なのかとの趣旨のご発言があったが、全体として、今日の委員会で「これで良いか」とお諮りするつもりは全くない。今日はお持ち帰りいただき、いろんな疑問をお出しいただき、宿題とし、次回の委員会には骨子としてとりまとめるイメージかと思う。しかも、この骨子には多くのことが書かれているので、骨子とするために、どこを絞り込むかという点もあろうかと思う。その点を含み置き、これから残った時間でご質問ご意見等をいただければと思うが如何か。

**【委員】**

- ・今、策定中であると思われる「みどりの基本計画」の情報と整合を図りながら作っていく必要があると思う。また、例えば今、国交省が推進しているグリーンインフラや SDGs といった大きな視点も必要ではないか。また、今後主流となるであろうエリアマネジメント的なパークマネジメントといった視点も必要である。
- ・細かいところでは、「魅力を高める樹木の保全活用」と左上に書いてあるが、樹木だけではなく公園全体でいろんな環境を考えて行く必要があるのではないか。また、人材育成、インクルーシブやユニバーサルなどの福祉系の視点などを盛り込んでいかないと、まだ「歯抜け」状態であると感じている。
- ・今回の委員会は残り時間があまりないため、次回も引き続き話し合った方が良いのではないかと思うが、いかがだろうか。

**【委員長】**

- ・国土交通省が推進しているグリーンインフラは、今後かなり進んでいくと思われる一方、グリーンインフラと公園をどのように結びつけるかというのは、まだまだ見えてこないところもある。それから、SDGs、エリアマネジメントといった、既にまちづくりの中で盛り込まれているキーワードをどの程度盛り込むかという判断もあるかと思う。
- ・委員のご発言では、引き続きもう少し時間をとって議論した方が良いのではないかとのことであるが、各部会は最終の部会は終わっているのか。次回の委員会の前に、各部会

が開催される機会はあるのだろうか。

**【事務局】**

- ・事務局としては、委員会前に各部会を開催するものと考えている。そこで部会としてまとめていただき、もう1回委員会の方でご発言いただくという風に考えている。

**【委員長】**

- ・もう一度、各部会でご検討いただく機会があるとのことだが、全部についてとなると荷が重いため、それぞれが「これは大事だよ」ということを、あるいは他の部会の分野に跨がっても良いと思うので自由に検討いただきたいと思う。要は、骨子として松戸市が外部に公表できるものとしたい。
- ・また、キーワードに関するご意見はその通りであると思う。
- ・43 ページの薄紫（新たなマネジメントシステムの構築）の箱枠に記載されている「緑の市民力」というのは、緑の基本計画でうたい続けている言葉であるが、この箱枠の中に工夫の余地がありそうであるとも思っている。新たなマネジメントシステムへの転換、新たなマネジメントシステムとは、という辺りである。ちなみに、事務局では新たなマネジメントシステムについて、今後の見通しはあるのか。

**【事務局】**

- ・確定的なところはまだ言えないが、Park-PFI を利用するとか指定管理といった方向性も考えながら、色々な協力体制を組みながら、効率的に魅力を高めて利用者の方に楽しんでいただく公園、という形を示すことができればと思う。今の直営という形が必ずしも決定的ではないということに記載したいと考えている。

**【委員長】**

- ・かなり具体的なキーワードが入っているが、「収益性のある事業」となると、何をもって収益性とするのか。日本の従来の行政において、公園管理の中での収益性というのは重視されていないと思う。「予算の効率的な執行」といった、たぶん行政では普通に使う言葉の用い方であるとか。こういったプランの骨子としてまとめる際のキーワードの用い方についても、次回の委員会までに、各部会のご議論の中でご検討いただくことをお願いしたい。
- ・また、委員長からの提案となるが、将来像案、いわゆるキャッチフレーズも含めてご検討いただき、骨子の中に盛り込んでいきたいと考えている。今回の委員会の中で、この3案から選ぶのは難しいと思う。事務局としてはいかがか。

**【事務局】**

- ・異論ない。

**【委員長】**

- ・では、キャッチフレーズを含めてご検討いただきたい。ちなみに、今、自治体では新しい政策を打ち出す際にキャッチフレーズという言葉はあまり使わないのか。キャッチフレーズという表現が適当なのかも含めてご検討いただきたいと思う。

**【委員】**

- ・キャッチフレーズは、今後どのように使われていくのか教えて欲しい。

**【事務局】**

- ・各種メディアにおいて、PR 活動を行う際、この公園のコンセプトをアピールするための大変重要なキャッチフレーズとなるのではないかと思う。

**【委員長】**

- ・今回の委員会では具体的なご指摘をいただくことができた。なお、どういうものを骨子として作図、作文すれば良いかについては次回委員会までの宿題とさせていただきたい。

**【事務局】**

- ・次回委員会は 3 月を予定している。なお開催日程については、各部会の開催日程の調整も含め、メールにてご連絡させていただきたい。

以上